

出張報告

報告日 令和1年9月17日

会派名	無所属	
報告者氏名	荒城 彦一	
種別	■調査研究（■行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議	
用務	①	全国が注目する、町をあげた特色ある「人口減少対策」について (島根県 海士町)
	②	公共交通再編計画とその運用状況について (兵庫県 宍粟市 しそうし)
	③	「プラスチックごみゼロ宣言都市」の取り組みについて (京都府 亀岡市)
視察日	令和1年8月19日(月) ～ 令和1年8月21日(水)	
場所	①	〒684-0403 島根県隠岐郡海士町大字福井 1365 番地 5 (役場) 海士町観光協会 会議室
	②	〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133 番地 1 宍粟市役所 503 会議室
	③	〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神 8 番地 亀岡市役所 会議室
調査項目等	①	島根県海士町「“ないものはない”」離島からの挑戦 ～人と自然が輝き続ける島に～
	②	兵庫県宍粟市「宍粟市公共交通再編成計画とその運用状況について」 ～次の世代にバスを残すために～
	③	京都府亀岡市「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」について ～世界に誇れる『環境先進都市・亀岡』を目指して～



概要及び所感

① 島根県 海士町

【概要】

- I ターン者が多く、移住者にとっての島の魅力は大きい。
- 島を再生していくための様々な取り組みにより、島民が危機感を共有できた。
- 子育て支援条例を制定。若年層の移住定住にとっての目玉施策となっている。
- ◎ 山内前町長がこれまで大改革を断行し、官民双方にとっての旗振り役であった。
- 島の唯一の玄関であるフェリーターミナルを役場と業者が力を合わせて盛り上げている。
- 海産物の流通については、自治体初となるCASシステム（細胞を壊さない画期的な冷凍システム）の役割が大きい。
- ◎ 行政、議会、町民の意識改革と明確な目標設定、そして、産官が一体となった産業育成と事業運営が、ここまで海士町を活性化することができた要因。
- 離島キッチンを東京の神楽坂他4カ所で展開。
- 海士町の取り組みは外部からも注目されていて、ジャイカの職員2名の研修を町役場が受け入れている。
- みんなでしゃばらん会の設立。半官半民の効果。
- 島内の地区・文化活動に、島外からの移住者や高校生（留学生）が積極的に参加している。
- ◎ AMAホールディング(株)について。島の「人事部」を立ち上げた。これにより、多様な人材と能力を適材適所に登用していくことができた。現在においては、そうした人材が立ち上げた事業の中心を担っている。行政だけでなく、民間からもまちづくりに参加してもらう意識づくりが醸成されている。

【平成会 荒城 彦一】 島根県海士町 行政視察 所感

「ないものはない」＝ 離島からの挑戦を続ける海士町が、成果を上げている「まちづくり」を研修することができた。

そこでの所感で最初に挙げておきたいことは「町の存亡に係る究極の危機に、全町民が一丸となって立ち向かった」ということであろう。

平成15年5月に就任した山内町長を先頭に、議会・職員が先頭になり、平成20年に直面した財政再建団体入りの危機を乗り越えたことに見られる。

それは、平成15年に合併協議会を解散し退路を断ち、「守りと攻めの両面作戦」を展開、歯を食いしばっての闘いだっただけに違いない。

我々はこれまでも、このような全国各地で成功した事例を見分し、学習してきたし、これからもするであろう。其々環境や素材、手法は異なるが、根底に流れる要諦は「危機感と本気度」に有るのではなかろうか。

且って本市も1市2町の合併をしたが、その時の高柳町は「全国にもその名を知られた『まちづくりの町』であった」が、その後は現在の状態である。我々は全国の成功事例を研修するにつけ、高柳の現状と対比検討しながら学習することができるのではなかろうか。「究極の危機感と本気」は追い詰められなければ生まれないということであろうか。大変有意義な視察研修であった。

② 兵庫県 宍粟市

【概要】

・地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組み、顕著な功績が評価され、宍粟市と民間交通会社2社が平成29年7月12日、国土交通大臣表彰「平成29年地域公共交通優良団体大臣表彰」を受賞。

「受賞にあたっての宍粟市自己評価」

- ①再編後 利用者が11ヶ月で4割増加した。
- ②コミュニティバスではなくバス事業者による「路線バス」として再編した。
- ③運賃を定額化するうえで路線を大幅に拡充した。
- ④行政が路線バスの運営に積極的に関わった。

「主な再編成計画」

- ・平成25年12月着手
- ・交通空白地域の解消
- ・外出支援サービスの見直し
- ・運賃の公平性確保

「乗って利用しなければ地域の大切な交通手段であるバスがなくなり地域の衰退が加速する。次の公共交通の再編はない！」という危機感を官民一体で共有した

「更なる取り組み」

- ・公共交通利用推進員 87名委嘱
- ・156自治会長に毎月バスの利用状況を提供。広報にも定期的に掲載。
- ・1日乗車券をH28、9月より発売開始—500円で乗り放題
- ・学生定期券を通常8,000円を5,000円に
- ・路線バスの愛称を「しーたんバス」として親しみを演出、バッジ製作
- ・幼稚園、保育園を対象とした公共交通MM「バスに乗って楽しそう」を実施
- ・バス乗換場に木製ベンチ設置
- ・土日運行の充実
- ・バス車両の低床化
- ・フリー乗降ゾーンの導入
- ・生活用品の配達

【平成会 荒城 彦一】 兵庫県宍粟市 行政視察 所感

「宍粟市の若者は鉄道がないことがコンプレックスになっている」という、地域づくり支援係福田係長の言葉に象徴されるように、鉄道がなく市民の生活や流通・移動手段は「車」である。それは路線バスであり、コミュニティバスであり、自家用車・商用車等々である。

この現実の中で、「公共交通再編計画」を打ち出し、「大臣表彰」を受けているように、掲げる8項目の課題に対する取り組みや路線整備など小さな成果は幾つか出ているが、抜本的課題の解決には至っていないと受け止めた。

一つの例として、路線バス利用者の増加が成果としてあるが、その大きな要因は料金設定（市内全域200円）の低廉化にあり、公共交通の利便性やサービス向上と市民（利用者）ニーズの合致によるものではないと感じた。

以上のように、宍粟市の取り組みは大いに参考になったが、抜本的課題の解決を残しており、柏崎市とも共通している点は今後の研究課題である。

概要及び所感

③ 京都府 亀岡市

【概要】

- ・かめおかプラスチックごみゼロ宣言に至る経過
 - 2005年 保津川下りの船頭さん2人による清掃活動が始まる
 - 2007年 保津川の環境保全に取り組むNPOプロジェクト保津川が誕生
 - 2012年 海ごみサミット 2012 亀岡保津川会議を開催（内陸部の自治体）
 - 2013年 川と海つながり共創プロジェクト設立
 - 2015年 桂川市長が環境先進都市を目指す
 - 2018年 亀岡市ゼロエミッション計画を策定
 - 2018年 かめおかプラスチックごみゼロ宣言を行う
- ・2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目指すための、具体的な取り組みとしては
 - ① 内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋禁止に踏み切り、エコバック持参率100%を目指す
 - ② 「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染（マイクロプラスチック）問題に立ち上がる意識のつながりを呼びかける
 - ③ 面発生するプラスチックごみは100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指す。
 - ④ 使い捨てプラスチックの使用削減を広く呼びかけ、市内のイベントにおいてもリユース食器や再生可能な素材の食器を使用する。
 - ⑤ 市民や事業者の環境に配慮した取り組みを積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡』のブランド力向上を目指す

【平成会 荒城 彦一】 京都府亀岡市 行政視察 所感

平成16年に保津川船下りの船頭氏の運動から始まり、平成30年の「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」にまで至ったという、1人の小さな問題意識が、世界的海洋汚染対策への取り組みにまで繋がってきている事例を研修することができ、大変有意義であった。

現在は「ゼロ宣言」を通して、目指す5つの目標に取り組みながら、中でも「レジ袋禁止条例」や、「海ごみサミット」が注目されているが、「使い捨てプラスチックゼロのまち」そして「世界に誇れる環境先進都市」実現のための「オリジナルアクション」は柏崎市でも実行可能な政策であり、大いに参考になった。